

JASDAQ
証券コード：2309

第19期 事業報告書
2002年10月1日～2003年9月30日



CMIC

Financial Report 2003



当期に関する 10のQ&A

引き続き30%を超える高い成長率を誇るCRO（医薬品開発受託機関）業界。シミックでは収益性も向上し2003年9月期連結業績で当初の計画を達成。売上高と経常利益ともに増加させることができました。そこで、当期の業績から各事業の状況や新規事業、今後の展望など、株主の皆さまから寄せられる10の質問に当社CEO中村和男がお答えします。

*印の用語につきましては、下段の用語解説をご覧ください。

Q1 当期の経営計画と業績を振り返っての包括的な感想は？

A 当期の日本経済は長引く景気低迷とデフレなどの問題を抱え、経営環境は厳しい状況で推移しました。製薬業界では合理化やアウトソーシングによる経営の効率化が昨年と同様に進み、新薬の研究開発が活性化しています。このような状況下で当社は、昨年に引き続き国内外の顧客企業からの新薬開発業務の受託拡大に努めた結果、連結売上高8,538百万円（前年度比30.9%増）、同営業利益972百万円（同46.6%増）、同経常利益974百万円（同48.6%増）、

同当期純利益449百万円（同70.0%増）となりました。また事業の品目別売上高は、モニタリング^{*}業務では4,546百万円（同33.8%増）、データマネジメント業務では1,278百万円（同14.5%増）、CRC^{*}業務では1,673百万円（同13.7%増）、薬事コンサルティング業務・その他では1,040百万円（同93.3%増）となりました。

当社グループは、医薬品の世界に新たな価値を創造するための支援を行うPVC^{*}（Pharmaceutical Value Creator）を目指しています。具体的には高い付加価値を提供するCRO^{*}として、コア事業における競争優位性の確保と事業拡大に努力を重ねた結果、順調に業容拡大ができたと考えています。

※グラフはすべて連結



Q2 CRO業界 その市場規模は？

A 日本CRO協会によれば、2002年のCRO業界の市場規模は389億円となっておりますが、2003年には514億円と30%を超える高い伸びが見込まれております。この市場拡大の傾向はしばらく続き、2005年には市場規模800億円以上になると予想されております。市場拡大の要因としては、医薬品の臨床試験のアウトソーシング化が進んだこと、また医療機器や特定保健用食品等、医薬品以外の分野での臨床試験も増加しつつあることがあげられます。2005年の薬事法改正を契機に、この傾向は更に拡大するものと思われれます。

Q3 CRO業界での シミックのポジションは？

A 当社は、CROのリーディングカンパニーとして「EBM^{*}の確立に貢献する企業」を企業理念に、CROとして製薬企業の医薬品開発部門を支援してまいりました。医薬品開発では、基礎研究、前臨床試験、臨床試験、申請・承認、市販後調査という各過程がありますが、当社は、

特に開発段階での臨床試験に強い企業としての地位を確立しております。

開発段階でのモニタリングは専門知識と円滑な人間関係の構築を必要とする難しい業務です。当社は、日本初のCROとして培ってきたモニタリング業務の実績やモニター^{*}の数の多さにおいて、同業他社と大きな違いがあります。これが「開発に強い」と言われる当社の特徴であり、今後の事業展開においてもモニタリング業務が当社グループ事業の中核であることは変わりません。

Q4 2005年の薬事法改正による 新たなビジネスチャンスは？

A 2003年から2005年に薬事法改正が段階的に施行されます。この改正に伴い医薬品は製造承認から製造販売承認へと移行され、製薬企業の経営スタイルも変化すると考えています。当社では製薬企業との共同開発や創薬ベンチャーとの共同開発など、新しい事業展開が可能になると期待しております。また、CROは現状、医薬品開発の一部しか受託できませんが、法改正によって完全受託の可能性もでてきます。当社は、この薬事法改正を、従来の事業領域のみならず新しい事業拡大の好機と考えています。

*用語解説

- CRO (Contract Research Organization)
医薬品開発受託機関
治験依頼者である製薬企業より委託され、医薬品の開発に関わる業務を行う組織・団体。
- PVC (Pharmaceutical Value Creator)
製薬企業の価値創生を支援するCRO：当社グループが目指す企業イメージ
- EBM (Evidence-Based Medicine)
科学的根拠に基づいた医療
経験や慣習、動物実験などにより類推された論理、権威者の意見等に頼る医療から脱却し、臨床研究などの科学的データをもとに、患者にとって最も有益で害の少ない治療法を選択する医療。
- モニタリング (Monitoring)
臨床試験が各医療機関において実施される場合に、依頼者が臨床試験が適性に行われているかどうかを監視・確認すること。その担当者のことをモニターと呼ぶ。
- CRC (Clinical Research Coordinator)
クリニカルリサーチコーディネーター
臨床試験実施にあたり、治験責任医師 (investigator) 又は治験分担医師の指示のもとで、医学的判断を伴わない治験業務の支援を行う専任スタッフ。

Interview

Q
5

新規事業の事業化計画は？

A

新規事業については、従来の医薬品開発の受託のみならず、創薬ベンチャーとのアライアンスやマーケティングサポートを含めた事業化を検討しています。

Q
6

他社との提携などは？

A

製薬業界の再編、創薬ベンチャーの出現など、CRO業界を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。株式会社NTTデータとの合弁会社を設立したように、医薬品業界以外の企業とも連携を取りながら、機を捉えた営業戦略によって事業拡大に弾みをつけてまいります。

Q
7

海外展開については？

A

当社グループでは、1998年韓国に現地法人を設立、2001年中国に駐在員事務所を開設しました。特に近年韓国においては、日本を除く多国籍共同試験

が、外資系製薬企業により実施されております。当社としてはこのような新しい流れの中で、日本を含むアジアを中心に多国籍共同試験を積極的に推進するとともに、他地域をも視野に入れた国際展開をめざしたいと考えております。



Q
8

今後の事業展開は？

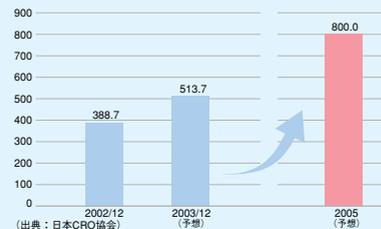
A

当社グループを取り巻く環境は、製薬企業のグローバル化、薬事法の改正、新技術基盤に基づく創薬ベンチャーの台頭により大きく変動しようとしています。今後は、開発業務から承認申請、マーケティングまで総合的にサービスを提供してきた経験を活かし、①コア事業であるモニタリング業務の更なる優位性確保②韓国・中国を中心とした国際業務展開③薬事法改正を契機にした新事業拡大によって、「製薬企業の価値創生を支援するCRO」を目指し事業展開してまいります。

■ 新薬の開発プロセス (赤色の部分が、当社の主要業務)



■ CRO市場の推移 (億円)



Q
9

環境変化に対応できるノウハウとは？

A 薬事法の改正により、製薬企業が研究から販売までの全ての過程を自社で行わず外注したり、創薬ベンチャーと共同開発を行う等の変化が考えられます。こうした環境の変化に対しては、当社グループは、外国製造医薬品企業の治験業務を全て国内管理人として実施した経験や、付加価値の高い戦略的なコンサルティング業務で培ったノウハウを用いて製薬企業の多様なニーズに対応できると考えております。また、創薬ベンチャーが発見する多数の新薬候補物質のプロジェクト評価は、非常に難しい作業です。当社は、多くの開発に携わった経験から、候補物質の評価、開発そしてライセンス支援など、既存製薬企業のみでなく創薬ベンチャーや医薬品への新規参入企業を総合的に支援できると考えております。

Q
10

株主の方々に向けてのメッセージは？

A 当社グループは「EBMの確立に貢献する企業」を企業理念に掲げ、安全でよりよい薬が1日も早く患者さんに提供できるよう努めています。今後も一層、質へのこだわりと一人ひとりの生産性の向上を課題に、顧客満足を意識したサービスを提供し、事業拡大に努める所存でございます。今後とも株主の皆さまに満足していただけるよう企業努力を続けてまいりますので、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



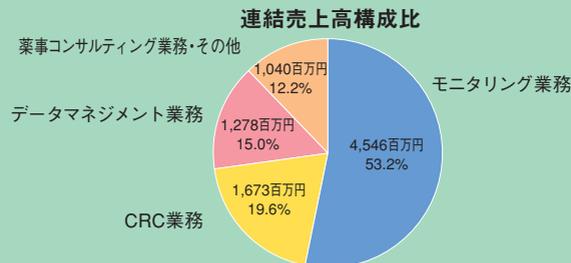
*用語解説

- **モニター (Monitor / CRA (Clinical Research Associate))**
臨床試験担当者
臨床試験依頼者より任命されたモニタリングを担当する者。
- **新GCP省令 (Good Clinical Practice)**
医薬品の臨床試験を実施するにあたり遵守すべき基準に関する省令。

- **PMS (Post Marketing Surveillance)**
市販後調査
市販後の安全性監視のための調査。
- **MR (Medical Representative)**
医療情報担当者
医療機関に対し医薬品の効能・効果・副作用情報等の適正使用情報を積極的に提供・収集する者。

当期の品目別 Q&A

4つの業務で新薬開発を総合的に支援するシミック。モニタリング業務をはじめ、CRC業務、データマネジメント業務、薬事コンサルティング業務の各部門ごとの当期の状況を引き続きQ&A方式でお答えします。



モニタリング業務

Q 日本最大規模を誇るモニタリング業務の業績と今後の展開は？

A モニタリング業務においては業界最大の300名体制を活かし、受注活動の活発化と品質管理部門の効率的な稼働により、堅調に成長を続けています。さらに、教育制度の充実による質の向上で今後も主力業務としてグループの成長をしっかりと支えてまいります。

データマネジメント業務

Q データマネジメント業務の業績と今後の展開は？

A データマネジメント業務は、市販後調査や安全性情報の管理など、薬が販売された後の案件が増えつつあります。

当社では、ウェブを利用して迅速にデータ収集・解析をするABCDシステムを独自に開発し、これら臨床試験を支援いたします。また、シミックアカデミックデータセンターによる医師主導の臨床研究支援業務においても、新しい事業展開が可能であると考えております。

CRC業務

Q CRC業務の業績と今後の展開は？

A CRC業務とは、CRC（クリニカルリサーチコーディネーター）が医療機関において医師のもと円滑な臨床試験の支援を行う業務です。臨床試験では、CRCのレベルが症例数を左右することもあるため、当社グループでは質の高さ・専門性の高さを重視しております。独自の教育認定制度を持っていることや、当社グループのCRCのほとんどは看護師資格を持っているのが特徴で、一層臨床試験のスピードアップに寄与してまいります。

薬事コンサルティング業務・その他

Q 当期の薬事コンサルティング業務の売上が急増した背景は？

A 当期のこの業務での売上高の増加は、シミック・ビーエスにおいて製薬企業への特定派遣業務が著しく伸びたことが要因です。今後も単なる派遣ではなく製薬企業と緊密な連携をとって受注の拡大に努めてまいります。また、医薬品の創薬から販売までの総合的支援を行う戦略薬事コンサルティング業務の実績とノウハウを全社レベルで共有化することにより、より一層競争優位を確保してまいります。

シミックのグループ戦略

シミックはグループを通じて、
EBM(科学的根拠に基づいた医療)の確立に貢献します。



シミックは日本で最初にCRO事業を開始し、臨床試験の国際基準である新GCP省令に対応した、開発分野に強い企業として業容を拡大してまいりました。

そのパイオニアとしての実績および蓄積したナレッジを活かし、医薬品開発全般に係る総合的な支援業務を提供しています。また、医薬品開発で培ったノウハウを幅広く応用し、製薬産業のみならず、広く健康を支える産業を総合的にサポートするPVC (Pharmaceutical Value Creator) として、付加価値の高い業務を提供してまいります。

シミックのグループ戦略

それぞれの専門性を持ったグループ企業が、力を結集して医薬品開発を総合的にサポートしています。



シミックCRC株式会社

クリニカルリサーチコーディネーター（CRC）業務は、臨床試験が医療機関で円滑に実施されるためのサポート、CRCに関するコンサルティング、モニタリング支援業務を提供しています。



株式会社シミック・ビーエス

製薬・医療業界に特化した人事組織開発および人材派遣業務等を提供しています。また、人事サポート・コンサルティングや組織開発コンサルティング、労務サポート・コンサルティング、転勤支援サポート等幅広く人事組織支援サービスを提供しています。



株式会社シミック アカデミックデータセンター

医師主導の自主的臨床研究に関する支援サービス、具体的には臨床試験に関するコンサルティングからデータマネジメント、統計解析業務、臨床試験を効率化するためのウェブシステム等を提供しています。



株式会社シミックエムピーエスエス

医薬品のマーケティング支援、被験者募集支援および営業マーケティングとしてMRの教育、派遣サービスを行っています。



PCN株式会社

インターネットを利用して患者や消費者へ情報を提供しています。



シミックコリア

韓国に設立した現地法人。戦略薬事コンサルティングをはじめデータマネジメント、市販後臨床試験等のCRO事業を展開しています。

※駐在員事務所



シミックチャイナ北京代表处

中国における薬事コンサルティング、新薬の申請支援業務をはじめとする臨床試験の支援業務を行っています。

PCN株式会社を、株式会社NTTデータと設立。

インターネットを利用した、患者や消費者への情報提供を行っております。

2003年6月2日、株式会社NTTデータと患者や消費者に対してインターネットによる情報提供を行うPCN株式会社を設立いたしました。

NTTデータが運営する「health クリック」という健康ポータルサイトを通じて、医薬品や疾病に関する情報発信をするとともに、有益な情報交換ができるコミュニティの形成を目指しております。

また、製薬企業に対し、被験者募集や疾病啓発の効果的な広告方法を提案し、医療に関心のある受療者と医療機関・製薬企業をつなぐチャンネルとして活用していきます。



<http://pcn.health.ne.jp/>



「GCP eラーニングサービス」の提供を開始。法令や臨床試験の基礎的な知識が手軽に学べるようになりました。

シミックではGCPに基づく臨床試験業務の理解に役立つeラーニングサービスの提供を開始。9月10日より受付を始めました。

本プログラムはインターネット上のサーバに収納され、会員となった受講者が好きな時間にアクセスして受講できる仕組み。法令の理解や臨床試験の流れなどの基礎知識の解説に加え、実践的な業務の流れをもとにした編集は特長で、モニタリング業務に関心のある学生や医療・医薬品関係者などを対象とした実践的な教育プログラムとなっています。

今後も臨床試験に関する認知度の向上と教育の効率化を目指し、サービス内容の拡充を図っていく予定です。



2003年9月期連結決算

当期のわが国経済は、輸出及び設備投資が回復基調にあるとはいえ、依然デフレの出口は見えず、厳しい状況が続いております。

医薬品業界におきましても、本年4月の医療費自己負担比率の引き上げ、来年4月の薬価改定を控え、経営環境は厳しい状況で推移しております。

このため、製薬企業は合理化・アウトソーシング等による経営効率化や業績拡大のため新薬の研究開発が活発化している状況にあります。この様な状況の中で、当社グループが属するCRO（医薬品開発受託機関）業界は臨床試験支援業務の受託を順調に拡大しております。

当社グループにおきましては、昨年度に引き続き国内外の顧客から新薬開発支援業務の受託拡大に努めました結果、当連結会計年度の業績は、売上高8,538百万円（前連結会計年度比30.9%増）、営業利益972百万円（同46.6%増）、経常利益974百万円（同48.6%増）、当期純利益449百万円（同70.0%増）となりました。事業の品目別の状況は次の通りです。

モニタリング業務における売上高は、受注活動の活発化とモニター及び品質管理部門の効率的な稼働により、4,546百万円（同33.8%増）となりました。

データマネジメント業務における売上高は、データマネジメント業務の受注増加と安全性情報評価業務の取扱開始により、1,278百万円（同14.5%増）となりました。

CRC業務における売上高は、主にメディカルコールセンターによる期中プロジェクト受注の増加により、1,673百万円（同13.7%増）となりました。

薬事コンサルティング業務・その他における売上高は、株式会社シミック・ビーエスにおける製薬企業に対する特定派遣業務の伸びが著しく、1,040百万円（同93.3%増）となりました。

財政状態

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローの収入が増加したものの投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローの支出が増加したことにより、前連結会計年度末に比し、258百万円減少（前連結会計年度比9.4%減）し、当連結会計年度末には2,506百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当連結会計年度末には前連結会計年度末に比べて364百万円増加（前連結会計年度比486.5%増）し、439百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益884百万円を計上したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当連結会計年度末では前連結会計年度末に比べて1,119百万円減少し△379百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、当連結会計年度末では前連結会計年度末に比べて1,222百万円減少し△316百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出によるものであります。

財務データ

連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (2003年9月30日現在)	前 期 (2002年9月30日現在)
資産の部		
流動資産合計	4,816,254	4,697,852
固定資産		
有形固定資産	297,097	230,911
無形固定資産	129,948	97,144
投資その他の資産	431,614	298,454
固定資産合計	858,661	626,510
資産合計	5,674,915	5,324,362

(単位：千円)

科 目	当 期 (2003年9月30日現在)	前 期 (2002年9月30日現在)
負債の部		
流動負債合計	1,604,263	1,472,110
固定負債合計	305,109	447,335
負債合計	1,909,372	1,919,445
少数株主持分		
少数株主持分	21,457	—
資本の部		
資本金	—	1,216,060
資本準備金	—	1,461,370
連結剰余金	—	726,792
為替換算調整勘定	—	694
資本合計	—	3,404,916
資本金	1,216,060	—
資本剰余金	1,461,370	—
利益剰余金	1,066,294	—
為替換算調整勘定	360	—
資本合計	3,744,084	—
負債、少数株主持分及び資本合計	5,674,915	5,324,362

財務データ

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (2002年10月1日から 2003年9月30日まで)	前 期 (2001年10月1日から 2002年9月30日まで)
売上高	8,538,740	6,525,524
売上原価	5,777,809	4,402,541
売上総利益	2,760,931	2,122,983
販売費及び一般管理費	1,788,306	1,459,362
営業利益	972,624	663,620
営業外収益	15,328	13,942
営業外費用	12,984	21,315
経常利益	974,968	656,247
特別利益	251	—
特別損失	90,828	15,898
税金等調整前当期純利益	884,392	640,348
法人税、住民税及び事業税	544,424	440,630
法人税等調整額	△107,796	△64,345
少数株主損失	1,314	107
当期純利益	449,079	264,171

連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	当 期 (2002年10月1日から 2003年9月30日まで)	前 期 (2001年10月1日から 2002年9月30日まで)
連結剰余金期首残高	—	509,492
連結剰余金減少高	—	46,871
配当金	—	37,871
取締役賞与金	—	9,000
当期純利益	—	264,171
連結剰余金期末残高 (資本剰余金の部)	—	726,792
資本剰余金期首残高	1,461,370	—
資本剰余金期末残高 (利益剰余金の部)	1,461,370	—
利益剰余金期首残高	726,792	—
利益剰余金増加高	449,079	—
当期純利益	449,079	—
利益剰余金減少高	109,578	—
配当金	88,578	—
取締役賞与金	21,000	—
利益剰余金期末残高	1,066,294	—

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (2002年10月1日から 2003年9月30日まで)	前 期 (2001年10月1日から 2002年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	439,474	74,932
投資活動によるキャッシュ・フロー	△379,608	739,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	△316,848	905,764
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,708	468
現金及び現金同等物の増加額	△258,690	1,720,666
現金及び現金同等物の期首残高	2,765,632	1,044,966
現金及び現金同等物の期末残高	2,506,942	2,765,632

財務データ

個別貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (2003年9月30日現在)	前 期 (2002年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	4,252,565	4,308,946
固定資産	1,159,914	807,282
資産合計	5,412,480	5,116,229
負債の部		
流動負債	1,302,770	1,247,421
固定負債	267,219	422,238
負債合計	1,569,989	1,669,659
資本の部		
資本金	—	1,216,060
資本準備金	—	1,461,370
利益準備金	—	17,700
その他の剰余金	—	751,439
資本合計	—	3,446,569
資本金	1,216,060	—
資本剰余金	1,461,370	—
利益剰余金	1,165,060	—
資本合計	3,842,490	—
負債・資本合計	5,412,480	5,116,229

個別損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	当 期 (2002年10月1日から 2003年9月30日まで)	前 期 (2001年10月1日から 2002年9月30日まで)
売上高	6,144,199	4,736,498
売上原価	4,148,137	3,308,186
売上総利益	1,996,062	1,428,312
販売費及び一般管理費	1,063,060	821,790
営業利益	933,001	606,521
営業外収益	67,006	11,202
営業外費用	7,589	21,125
経常利益	992,418	596,598
特別損失	75,122	13,347
税引前当期純利益	917,295	583,251
法人税、住民税及び事業税	480,746	338,007
法人税等調整額	△62,950	△50,032
当期純利益	499,498	295,275
前期繰越利益	137,499	66,163
中間配当額	29,638	—
当期末処分利益	607,360	361,439

利益処分

(単位：千円)

科 目	当 期 (2002年10月1日から 2003年9月30日まで)	前 期 (2001年10月1日から 2002年9月30日まで)
当期末処分利益	607,360	361,439
合計	607,360	361,439
利益処分額	337,825	223,940
配当金	47,825	58,940
取締役賞与金	40,000	15,000
任意積立金	—	—
別途積立金	250,000	150,000
次期繰越利益	269,534	137,499

株式の状況・会社概要・役員・沿革

株式の状況 (2003年9月30日現在)

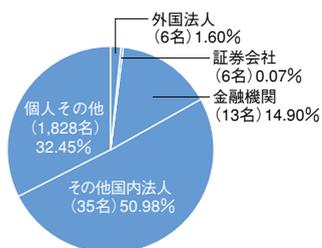
会社が発行する株式の総数2,300,000株
 発行済株式総数673,600株
 株主数1,888名

大株主

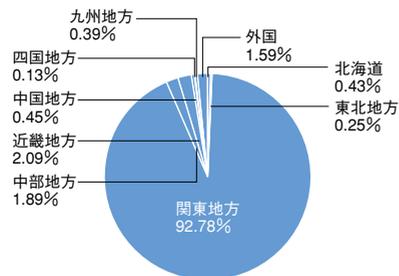
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルテミス	320,010	47.5
中村和男	94,500	14.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	59,530	8.8
シミツク従業員持株会	19,320	2.8
みずほキャピタル株式会社	17,600	2.6
中村圭子	16,400	2.4
資産管理サービス信託銀行株式会社	13,070	1.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	9,540	1.4
UFJ信託銀行株式会社	7,870	1.1
市川宏司	7,000	1.0

- (注) 1. 議決権比率は、小数点以下第2位を切り捨てております。
 2. 上記株主の所有株式数のうち、信託業務にかかる株式数は次のとおりであります。
- | | |
|----------------------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 59,530株 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 13,070株 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 9,540株 |
| UFJ信託銀行株式会社 | 7,870株 |

所有者別の構成比(株式数比率)



地域別の構成比(株式数比率)



会社概要 (2003年9月30日現在)

商号	シミック株式会社	
設立	1985年	
資本金	1,216,060千円	
本社所在地	〒141-0022 東京都品川区東五反田4-7-20 相生ビル	
従業員数	723名	
(連結)	157名(平均臨時雇用者数)	
事業所	北海道支社 東北支社 名古屋支社 大阪支社 九州支社 CMIC China (北京駐在員事務所)	
グループ会社 (連結子会社)	シミックCRC(株) (株)シミックMPSS CMIC Korea Co., Ltd.	(株)シミック・BS (株)シミックADC PCN(株)

役員 (2003年12月18日現在)

代表取締役会長兼社長	中村 和 男
取締役副社長	市川 宏 司
取締役副社長	中村 紘
専務取締役	中村 圭 子
専務取締役	安田 利 正
取締役	詫 摩 直 也
監査役(常勤)	中野 信 介
監査役(非常勤)	長 井 チエ子
監査役(非常勤)	酒 井 繁

沿革

1985年	3月	製薬企業からデータの集計・解析業務の受託を目的として設立
1992年	4月	中村和男代表取締役就任 日本で最初のCROとして本格的にスタート
1994年	2月	臨床開発部設置
	9月	CRO4社にて「日本CRO協会」を発足
1996年	4月	大阪支社開設
	6月	日本のCROで最初にCRC業務開始
1998年	6月	CMIC Korea Co., Ltd.設立
1999年	4月	中村和男代表取締役が「日本CRO協会」会長に就任
	7月	九州支社開設
2000年	3月	北海道支社開設
	4月	日本で最初に臨床試験の被験者募集業務開始 東京と大阪にコールセンターを設置
	7月	シミックCRC(株)設立
	8月	(株)CIM設立 CSO業務開始
	10月	CRC業務部門をシミックCRCに営業譲渡 (CRC業務の分社化) 東北支社開設
2001年	1月	名古屋支社開設 (株)シミック・BS設立 ヒューマンリソース業務開始
	9月	シミックChina(北京駐在員事務所)開設 (株)CIMを(株)シミックCSOに商号変更
2002年	6月	株式をJASDAQ市場に上場
	11月	(株)シミックADC設立 (株)シミックCSOを(株)シミックMPSSに商号変更
2003年	4月	九州大学に「医療ネットワーク学講座」を開設
	6月	(株)NTTデータとの合併でPCN(株)設立

株 主 メ モ

決 算 期 日	毎年9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年12月
配当金受領の株主確定日	9月30日
	中間配当を実施するときは3月31日
基 準 日	毎年9月30日
	その他必要あるときは、あらかじめ公告して 臨時に基準日を定めます。
公 告 掲 載 紙	日本経済新聞
	当期より決算公告に代えて貸借対照表および損 益計算書を当社ホームページに掲載することと いたしました。
	http://www.cmic.co.jp/
名 義 書 換 代 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵 便 物 送 付 先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電 話 お 問 合 せ 先	電話 (03)5213-5213(代表)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

シミツク株式会社

〒141-0022 東京都品川区東五反田 4-7-20 相生ビル
Tel 03-3280-2296(代)
Fax 03-3280-5657
<http://www.cmic.co.jp/>